



■ 代表的な認知症(2)

前回に引き続き、代表的な認知症をご紹介します。

レビー小体型認知症

実際にはいない人が見える「幻視」、眠っている間に怒鳴ったり、奇声をあげたりする異常言動などの症状が目立ちます。また、手足が震える、小刻みに歩くなどパーキンソン症状がみられることもあります。頭がはっきりしたり、ボーとしていたり、日によって変動することも特徴的です。

【原因】脳の神経細胞の中に「レビー小体」と呼ばれる異常なたんぱく質の塊がみられます。このレビー小体が脳に広く現れると、その結果、認知症になります。

【主な症状】

- ・認知機能の症状 注意力がなくなる、ものがゆがんで見えるなどの症状が現れます。また、時間帯や日によって、頭がはっきりして物事をよく理解したり判断したりできる状態と、ボーとして極端に理解する力や判断する力が低下している状態が入れ替わり起こります。
- ・行動・心理面の症状として、幻視（実際には見えないものが本人にはありありと見えるなど）、錯視（丸めてある洋服を動物と見間違ふなど）、睡眠時の異常言動（睡眠中に大声で叫んだり、暴れたりする）、抑うつ症状（気分が沈み、意欲が低下するなど）があります。
- ・身体面の症状として、パーキンソン症状（動作が遅くなる、無表情など） 自立神経症状（血圧や体温調節がうまくいかず、立ちくらみや発汗、頻尿やめまいなどを起こす）があります。

対応のポイント

◎転倒に注意しましょう。

パーキンソン症状で筋肉や関節がこわばり、歩行が小刻みになるため、転びやすくなります。また、立ち上がった際のふらつき、めまいなどで気を失ったりすることがあります。

- イスからの立ち上がりや階段では手すりを使う。
- つますきやすいものは片付け、家の中を整える。

◎食べ物が飲み込みにくくなります。

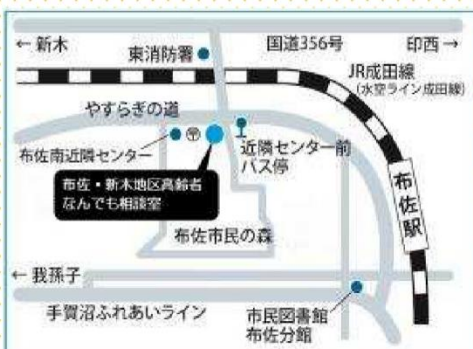
症状が進行すると飲み込む機能が衰えて、誤嚥（唾液や食べ物が気管に入ってしまう）することがあります。むせて吐き出せるといいのですが、吐き出せないで肺炎を起こしやすくなります。

- 食事の時は前かがみの姿勢をとり、家族が見守る
- 細かく刻む、トロミをつけるなど、調理を工夫する。



次回は脳血管性認知症についてご紹介します！

布佐・新木地区高齢者なんでも相談室



住所：我孫子市布佐平和台4丁目1番1号

電話：04-7189-0294

FAX：04-7189-0290

利用できる日：毎週月曜日から土曜日まで及び第4日曜日

担当地区

新木、新木野、南新木、布佐西町、布佐、布佐平和台、江蔵地、都、新々田、三河屋新田、相島新田、大作新田、布佐下新田、浅間前新田